

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2010年(平成22年)4月27日(火曜日) (第三種郵便物認可)

竹フローリングを展開

竹は成長が早く3〜4年で成竹。環境への負荷が少ないことから、持続可能な社会を支えるエコ素材として無限の可能性を秘めている。この竹にいち早く注目し、積層合板材などの竹原料製品の製造販売を展開しているダイヤ扶桑(大阪府東大阪市、前園宗義社長)は、「健康・安全・環境」をコンセプトとした床フローリング材「ダイヤバンブーフローリング」の販売を通じて、理想の住まいづくりを提案している。「竹に関するところなら1日中話しても話題が尽きない」と語る前園社長に、商品の特徴や今後の取り組み、展望などを聞いた。

天然素材の竹に着目し、製品開発に着手したのは1990年のことだ。竹は、そのまま使用すると、ささくれや虫食い、反りなどの問題点はあるが、同社は、独自に開発した製法により、これらの課題を一気に解消させた。

そして、独自のノウハウで積層合板に加工したフローリング材・ダイヤバンブーフローリングの開発に成功し、95年エヌから製造販売を本格化させた。

商品は、「人に優しく、地球にやさしく」が基本理念だ。中国産で幹の太い竹齢4〜5年の孟宗竹を選別し、浙江省杭州に設立した合弁会社の工場(年間生産能力20万平方



ダイヤ扶桑 社長 前園 宗義氏



人に優しく
地球にやさしい
商品を提案

従業員380人で加工している。積層合板として加工するための煮沸、乾留、炭化、乾燥、縦張集成及び平張集成、サネ加工、研削、塗装仕上げの各工程をきっちりと管理することで、高品質な製品を供給している。

天然素材をより生かすため、仕上げ塗装、集成接着剤には、ノンホルマリンの国産材を使用している。このためシックハウスの原因となるホルムアルデヒドの放散はゼロだ。

「竹は国の規制対象建築材料以外の建築材料となるが、成分や強度など各種の適合基準試験をクリアしており、F☆☆☆☆(F4スター)規格と同等の性能がある」といふ。

自浄作用や脱臭、天然抗菌効果があることも竹製品の強み。抗菌・消臭の効果は公的機関に依頼した試験により実証済みで、健康志向の顧客からの需要も多い。

さらには耐熱性や熱伝導性に優れていることから、床暖房の表面材としての評価も高い。「木材フローリングだと立ち上がり(温まるまでの時間)に数十分はかかるが、竹製品は10分程度で暖かくなる」と胸を張る。積層無垢材でありながら、大阪ガスや東京ガス、東邦ガス、古河電気工業の各社による試験基準値を満たし、床暖房システムに適合するケースは珍しい。

製品は、住友林業の戸建て住宅・スーパーナチュラルシリーズに正式採用されているほか、積水ハウスやアイカ工業にもOEM(相手先ブランド)供給しており、徐々に認知度が向上してきた。京都竹材商業協同組合の推奨品にも指定されており、販路は着実に拡大している。

次のステップとしては、国産の竹を使った製品供給を視野に入れている。

「昨年、鹿児島県日置市において、資材供給から製品化までの生産体制を構築した。現時点では、注文を受けてからの生産となるが、徐々に拡大させていく」考えだ。

前園社長は、持続可能な社会を支えていく企業として、今後一層、竹資材が広く認知されていくことを望んでいる。

「フローリングを含め、現在の建築資材は、木材が中心の市場となっているが、木材は一度伐採すると育成するのに最低50年はかかり、効率的とはいえない。すぐ成竹になる竹は、その旺盛な繁殖力が潤沢な資源の供給を可能にし、地球環境の保護にも貢献できる」と力説する。

床暖房に最適、健康志向で顧客掴む

会社概要

- ▷会社名=ダイヤ扶桑株式会社、(英文名)DIA FUSO CO.LTD.
- ▷設立=1987年8月6日
- ▷本社所在地=〒577-0835 大阪府東大阪市柏田西1-12-12
- ▷電話番号=06-6721-2231
- ▷ファクス=同2235
- ▷営業所=東京営業所、東京東営業所
- ▷資本金=2,000万円
- ▷事業内容=竹を原料とした積層合板材の製造販売、竹粉・脱臭材の製造販売、建築工事業および建築資材の販売
- ▷URL=http://www.dia-f.co.jp



保育所の施工事例。足ざわりがよく、衝撃をやわらげるのが特徴

